

# 子どもを守る

## 第1回 災害(地震・津波・水害)に備えて

取材：松崎・田井  
執筆：神谷・菊田

### 今後、阪神間に大きな被害をもたらす可能性のある地震

東南海・南海地震 ※30年以内に60~70%  
海溝型 M8.5 震度 5~6 津波 2~3m (90~120分後)  
死者 1.2~1.8万人 全壊 33~36万棟

東海・東南海・南海3連動地震 ※30年以内に60~87%  
海溝型 M8.7 震度 6 津波 5~6m (80~110分後)  
死者 2.2~2.8万人 全壊 51.3~51.8万棟

東海・東南海・南海・日向灘4連動地震 ※30年以内に60~87%  
海溝型 M9以上 震度 6以上 津波 10m以上?

上町断層帯地震 ※30年以内に2~3%  
直下型 M7.6 震度 6~7 死者 4.2万人 全壊 97万棟

六甲・淡路島断層帯地震 ※30年以内に0~1%  
直下型 M7.9 震度 6~7 死者 1.2万 全壊 16.5万棟

参考：阪神大震災 ※30年以内に0.4~8%  
直下型 M7.3 震度 6 死者 6,434人 全壊約 10.5万棟

3月11日、M9.0(観測史上最大)を記録し、10m以上の大津波によって1万5,000人以上の命を奪った東日本大震災。半年近くが経過した今もその爪痕は深く、それどころか原発事故による放射能の影響が、大気や土壌を経由して日本全国に広がっています。

阪神間は、1995年に阪神淡路大震災を経験しましたが、それ以上の被害をもたらすと考えられる大災害が近い将来、必ず発生します。

特に尼崎は、海に面し、市のほとんどを海拔ゼロメートル地帯が占め、避難できる範囲に高台はありません。川も多いため、これまでも何度も洪水などの水害に悩まされてきました。その教訓を生かし、治水・高潮対策はとられてきましたが、それら施設の経年劣化や根拠にしている想定は甘すぎません。

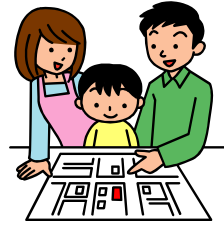
命運を自治体まかせにするのではなく、自助力と共助(地域)力を高め、来るべき大災害に備えましょう。

## 災害に備えてすべきこと



### 家や家具の耐震

- 耐震診断(市の耐震診断受付中: 12/9まで)
- ハザードマップで自宅の被害想定をチェック
- 重い家具は1階へ置く/壁につけて窓ガラスから離す/重い物、割れ物、不安定な物を上に置かない/金具や耐震棒・ゲルで柱に固定する
- 出入り口や通路、寝室には極大家具を置かない
- ガラス窓・扉に飛散防止フィルムを貼る
- 食器棚などの開き戸にはストッパーをつけ、棚板にすべり止めシートを敷く



### 避難場所の確認

- 自宅内の避難場所(テーブル下など)を決める
- 自宅、通勤・登下校中、職場・学校、習い事など、各場所で被災した際の避難場所を決める
- 避難ビルや避難所を確認し、ルート上に冠水や落下物など危険な箇所がないか下見する
- 災害用伝言ダイヤルやtwitterなど、非常時の連絡方法や、待ち合わせ場所を決めておく
- 家族だけでなく隣人や近所の友人とも情報をシェアし、災害時に助け合う関係を構築する



### 持ち出し品の準備

- ① 避難するときに必要なもの
  - ② 貴重品(現金・身分証明書・データなど)
  - ③ 1~2日の生存に必要な水・食料・常備薬
  - ④ 避難所で手に入りにくい衛生用品
  - ⑤ +α(着替え・子どもの絵本やおもちゃ)
- 重さは男性 15kg、女性 10kg まで
  - 出しやすい場所に置き、実際に持ち歩いてみる
  - 食品の賞味期限、子どものオムツや服のサイズ、電池の残量や動作の確認を定期的に行う



### 備蓄品の準備

- 水(1日3L×家族の人数分)、殺菌剤
- 給水ポリタンク・運搬カート・トイレ用バケツ
- 使い捨て食器・ラップ・アルミホイル
- 食材(非加熱・長期保存・栄養価のある常備食)
- カセットコンロ・ポンペ、電気調理器具
- ランタン、電池、充電器(手回し・太陽光)
- ウェットティッシュ・トイレトペーパー、生理用品・オムツなど
- タオル、毛布、衣類など

#### ①避難するときに必要なもの

懐中電灯・ラジオ・マスク・ホイッスル・軍手・メガネ・帽子・タオル  
ロープ・布ガムテープ・マジック・ビニール袋・カイロ・防寒シート

#### ②貴重品

鍵・現金(小銭)・通帳・印鑑・身分証・携帯電話(充電機)・重要書類縮小コピー(保険証など)・データ(外付HDD・USBメモリ)・家族写真

#### ③1~2日の生存に必要なもの

水・簡易携行食・常備薬・粉ミルク・ベビーフード・アレルギー対応食

#### ④避難所で手に入りにくい衛生用品

オムツ・生理用品・アメニティ・鏡・ウェットティッシュ・救急用品

職場などにも同様のものを常備し、さらに徒歩帰宅に備えて歩きやすい靴を用意しましょう。また、ラジオ・ライト・充電機、簡易食、重要データを入れたUSBメモリなどは、常に持ち歩いておくことで安心です。

津波や火災で1番失いたくないもの・・・それは家電や服などお金で買い直せるものではなく、写真や日記など、思い出の品や記録ではないでしょうか。

デジカメで撮った写真は、パソコンだけでなく、DVDや外付ハードディスク(HDD)にもバックアップをとり、被災時はHDDだけでも持ち出せるようにしましょう。

また、バックアップデータは自宅だけでなく、実家や職場、インターネット上などに分散させておくことで災害で失われるリスクが軽減します。

契約書などの重要書類や金銭関係の覚え書き、母子手帳や保育日誌などの思い出の記録も全てスキャン・データ化してHDDやUSBメモリに入れておけば、常に持ち歩くことができます(データは要ロック!)